

史跡 山形城跡 **二ノ丸東大手門**



二ノ丸東大手門とは

山形城の二ノ丸の大手（正面）にあたるのが「二ノ丸東大手門」です。枡形と呼ばれる広場を中心に、櫓門や続櫓、高麗門及び土塀で構成された枡形門と呼ばれる形式で、本丸一文字門も同様の構造になっています。

山形城は本丸及び二ノ丸が城郭の中心部となっていたため、軍事的な機能だけでなく、藩主の威厳を示す役割も有していました。復原にあたっては、最も史料が残る、江戸時代中期（堀田氏時代）の姿で復原しました。



明治初期の二ノ丸東大手門（撮影：菊地新学）

全国でも有数の規模を誇る

山形城は、三ノ丸まで含めた城全体で全国5位の広さを誇り、東北地方で最も面積が広い城です。この東大手門は、城の大きさにふさわしく、江戸城に勝るとも劣らない規模となっています。近年では、映画の中で江戸城のシーンとして使用されたり、CMの撮影で利用されています。

順位	城郭名	規模 (ha)
1	江戸城	2082
2	大坂城（豊臣）	400～500
3	小田原城	348
4	名古屋城	300～
5	山形城	235



「超高速！参勤交代」撮影の様子
（協力：松竹 写真提供：山形フィルムコミッション）

〈撮影実績〉

映画 超高速！参勤交代（2014年公開）配給 松竹
映画 小川の辺（2011年公開）配給 東映

石垣の復原

修復(積み直し)と取り壊された部分の復原(新しく積みこ)を行いました。新しい石材は、現存する石垣と同じく馬見ヶ崎川や蔵王温泉から採取した蔵王山系安山岩を使用しました。

大手橋の復原

石垣に残る痕跡から、兩岸の石垣から斜めに支える方法で復原しました。一方、本丸一文字門の大手橋は堀から橋桁を立ち上げる方式を取っており、同じ城内でも違いが見られます。橋の高欄に使用した擬宝珠は山形鋳物で製作しました。

高麗門及び土堀

古写真と現存する石垣の寸法から復原しました。なお土堀は一般的に狭間と呼ばれる矢や鉄砲を放つための穴が設けられますが、古写真に写っていないことから設けていません。一方で、本丸一文字門では詳細な史料が無かったため、一般的な狭間がある土堀を復原しました。

櫓門及び続櫓、北櫓

東大手門を構成する建物群の中で最も規模の大きいものです。古写真と絵図面を基に、現存する石垣から寸法を割り出し復原しました。櫓の内部構造については、図面が残っていないため、城内の他の建物の図面を参考にしました。



石垣積み直しの様子



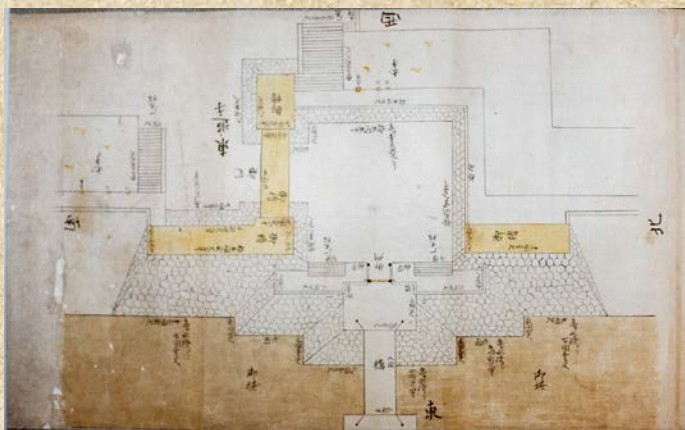
大手橋復原工事の様子



櫓の内部



櫓門



山形城二ノ丸東大手門絵図(個人蔵)



上空からみた二ノ丸東大手門

東大手門の見どころ

〈かぶき 櫓門冠木〉

使用されている冠木は、長さ13.8m、高さ84cm、幅54cmの巨大な部材です。これだけの大きさと節の少ない国産材を調達することが困難であったため、台湾から調達しました。



〈石落とし〉

二ノ丸東大手門に敵の侵入を許した場合、櫓門を堅く閉ざし、ここから石を落としたり、鉄砲や弓で攻撃するための仕掛けです。



東大手門の特色

最上氏時代（江戸時代初期）の東大手門は、二ノ丸堀に張り出す「外枡形」とよばれる形式でした。その後、江戸前期の改修にあたり、二ノ丸を拡張し、現在見られる枡形を内側に納める「内枡形」という形式になりました。この変化は、江戸時代初期以降、全国的に見られるもので、ここ山形城においても、戦乱の時代から太平の世へと転換する中で城の持つ役割が変化していったことを表しています。

一方で、本丸一文字門は外枡形で右に折れる形をとっており、二ノ丸東大手門では入口から左に折れる形となっています。本丸と二ノ丸とで枡形の構造・進入方向で違いがあります。



建物の仕様

名称	仕様	大きさ	備考
檜門 及び続櫓	木造、矩折一重櫓 本瓦葺入母屋造 一部両脇戸付檜門 塗籠、軒出桁	檜門 27.0×105.0尺 (8.182×31.818m) 棟高 42.7尺 (12.939m) 続門 63.0×20.5尺 (19.090×6.212m) 棟高 24.4尺 (7.394m)	床面積 260.33m ² (78.75 坪) 118.60m ² (35.9坪)
北櫓	木造、一重櫓、本瓦葺入母屋造 塗籠、軒出桁	67.5×20.5尺 (20.455×6.212m) 棟高 24.4尺 (7.394m)	床面積 127.07m ² (38.4坪)
高麗門	木造、高麗門 本瓦葺切妻造、軒塗籠	間口 18.6尺 (5.636m) 棟高 24.2尺 (7.333m)	
土塀	木芯土塀、本瓦葺	高麗門脇 延長149.5尺 (45.303m) 棟高 8.8尺 (2.667m) 柵形部 延長155.5尺 (47.121m) 棟高 8.8尺 (2.667m)	
東大手橋	木造（一部橋梁鉄骨構造） 勾欄付	48.0×21.0尺（長さ14.544×幅6.363m）	

霞城公園整備計画と二ノ丸東大手門復原までのあゆみ

1978（昭和53年）	市制施行90周年記念事業審議会の答申を受け、事業決定する（10月）。
1979（昭和54年）～ 1981（昭和56年）	有識者等による史実調査。
1982（昭和57年）	形式・構造調査を行う。
1983（昭和58年）	基本設計
1984（昭和59年）	復原工事実施設計。「霞城公園整備計画」策定。
1985（昭和60年）	石垣修復工事実施設計
1986（昭和61年）	国の史跡に指定される （昭和61年5月28日 文部省告示第83号）
1987（昭和62年）	二ノ丸東大手門復原工事及び石垣修復工事に着手（7月）。 台湾桧を含む建築用木材522m ³ （1880石）を購入。
1989（平成元年）	檜門、続櫓、北櫓の上棟式（6月）。
1991（平成3年）	二ノ丸東大手門完成（3月）。

事業費	（単位：千円）
石垣の修復・復原	180,000
石材購入	28,000
檜門などの復原	480,000
木材購入	230,000
調査・設計	80,000
その他	12,000
合計	1,100,000

檜門・続櫓内部を公開しています。

公開期間：4月初旬から11月初旬
公開時間：午前9時から午後4時まで

※桜満開時、花笠祭り時
開館時間延長あり

問い合わせ先

公園整備・管理に関すること
山形市公園緑地課

〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号
電話：(023) 641-1212 内線529・530

発掘調査・城郭の歴史に関すること
山形市文化創造都市課

〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号
電話：(023) 641-1212 内線626・627